

議 事 概 要	
会議の名称	令和6年度第3回長久手市地域保健対策推進協議会
開催日時	令和7年3月14日（金）午後2時から午後3時15分まで
開催場所	長久手市役所会議室棟 会議室 H
出席者氏名 （敬称略）	委員 加藤 潤司 川本 さつき 川本 玲美 駒村 和廣 横山 智絵子 松永 昌宏 森下 雅史 古橋 完美 近藤 高明 中原 亜希子 廣中 省子 事務局 福祉部長、健康推進課長、同課健康増進係長、同課健康増進係専門員 子ども部次長、子ども家庭課長、同課母子保健係長、同課母子保健係主任
欠席者氏名 （敬称略）	委員 横井 英臣 安藤 京子
会議の公開・非公開	公開
傍聴者人数	なし
審議の概要	(1) 保健事業報告について (2) 健康づくり計画（第3次）策定について
問合先	長久手市福祉部健康推進課 電話 0561-63-3300
備考	
議 事 録	
1 会長挨拶 近藤会長より 2 議題 (1) 保健事業報告について 事務局説明 資料1に基づいて説明 質疑応答・意見等 委 員：オーラルフレイル健診について、対象年齢が76歳とあるが、これまで75歳が対象ではな	

かったか。

事務局：これまで0と5のつく年齢を対象として歯周病検診を実施しており、75歳を対象としていたが、本市では年齢基準日を年度末年齢としていることから、75歳として受診する人の半数ほどが、誕生日の来る前の74歳で受診している。75歳以上の受診者は、後期高齢者医療の補助金対象となることから、他市町にも倣い、確実に被保険者となる76歳を対象とすることとした。

会 長：健康測定会の実施内容に「シセイカルテ」とカタカナで記載があるが、これは何か。

事務局：立位の撮影画像をAIで姿勢分析をするもので、協定先企業が実施した。

委 員：来年度からオーラルフレイル健診を実施するとあるが、検診後のフォローはどのようなか。

事務局：検診後のフォローは、各歯科医院に保険診療として実施していただく予定である。まずは、本市のオーラルフレイルの状況を把握することが必要と考えている。

委 員：健康マイレージ事業のチラシはどのようなものか。

事務局：A3版を2つ折りしたフルカラーのチラシを作成しており、公共施設に置いたり、保健センターで実施した事業の参加者に配布した。健康マイレージ事業の説明と、協賛企業からの協賛品の紹介、自身が取り組んだことを記載できるシートが1枚になっている。

委 員：母子保健事業の評価として、合計特殊出生率あたりの費用対効果などを確認したりはしているか。

事務局：出生率での事業評価は実施していない。各事業の利用状況などからの評価を行っており、体系的な評価まではできていない。

委 員：今後必要ではないかと思う。

会 長：産後ケア事業について、実績を見ると令和6年度の利用がかなり伸びていることが分かる。需要があることに対しての対応や、今後の方向性はどうか。

事務局：令和6年度の利用がかなり増えているが、事業の委託先も増えているため、要望、需要には応えられている。令和5年度までは、支援が必要な人が利用するものであったが、令和6年度からは、産後ケアを利用したい人が利用できることとした。本市は、核家族も多いので、産後の支援は重要と考えており、今後も進めていきたい。

(2) 健康づくり計画（第3次）策定について

事務局説明

資料2・3に基づいて説明

質疑応答・意見等

会 長：パブリックコメントも実施した計画の最終確認である。お気づきの点や、今後の展開への助言等あればお願いしたい。

がん検診受診率について、住民全体を分母にすると、これまでの数字とかなり異なってくる。そのため、当面併記するということか。

事務局：平成27年の厚生労働省の通知で、自治体間で住民検診の受診率を比較可能なものとするために、受診率算定の分母の定義が全住民に統一されたが、健康づくり計画やこの会議などでも受診率の向上をテーマに議論いただくことも多く、本市では従来どおりの受診率の表記としていた。本計画の見直しのタイミングで、受診率の表記を変更することとしたものである。数字

もかなり異なるので、併記していく。現状は、本市が実施した検診での受診者数しか把握できないが、職域などでの受診者についても把握ができるようになるなど、もっと実状がわかるようになる時期が来るかもしれない。

委員：「他課との連携強化」とあるが、非常に大事なことだと思う。各課でいろいろな取組があるが、それが重複している部分も一部あると思う。この先長久手市では、予算のカットも進められていくと聞いている。効率的に利用し合いながら各事業、施策が進められると良いと思う。とても大切な視点だと思う。

会長：中間評価は令和13年度となっているが、毎年のモニタリングも必要と思う。

事務局：評価指標の中でも、健康だと感じている人の割合、健康を意識した生活をしている人の割合、健康づくりに取り組んでいる人の割合をポイントとして、継続的に確認していきたいと考えている。大規模なアンケート調査を毎年は難しいが、事業参加者への調査などで推移を確認していきたいと考えている。ただし、事業の参加者は、健康への意識の高い人が多くなる傾向があることには注意を払いたい。

委員：今までの計画案よりも、まとまりのあるものに仕上がっていると感じる。がん検診のところに「精度管理」とあるが、聞き慣れない言葉であり、意味を教えてください。

事務局：検診は、ただ実施するだけではなく、質を保って実施する必要がある、質の管理をしていくという意味である。

会長：品質管理の意味と同義である。

委員：健康マイレージについて、もう少し詳しく聞きたい。

事務局：自分で設定した目標について、紙かアプリでポイントを貯めると、協賛企業からの賞品が抽選で当たるものである。アプリは、愛知県が作成したもので、各市町ごとに内容設定している。

委員：健康マイレージの達成者が357人とあり、思ったより少ない印象がある。

事務局：実際に取り組んでいる人はもう少し多いと思うが、協賛品の抽選に参加した人を計上することとしている。アプリでは、スマートフォンの歩数計機能を使うことで、歩数によるマイレージも貯めることができる。歩数でマイレージが貯まった人の中には、マイレージを達成したという認識がなく、抽選に応募していない人もあり、当選した協賛品を受け取っていただけない等の課題があり、見直したものである。また、健康マイレージは、目標も自分で設定すればよいなど、入口の敷居をかなり低くした事業となっている。例えば、歩数アプリもさまざまなものがあり、健康マイレージ以外にもあるが、ご自身の取り組みやすいものでみなさんが健康になっていただければよい。

会長：では、これまでこの会議で議論してきたものがこのようにとりまとめられたということだが、この計画について、みなさん承認していただけるか。

(異議なし)

会長：ありがとうございます。計画期間12年で長い計画となるが、この計画に沿って、自然に健康になれるまちをめざし、健康づくりを展開していただきたい。よろしくお願いします。

事務局：ありがとうございます。最後、市長あいさつ等を追加し、冊子として整えていく。来年度の協議会は7月と2月の2回を予定している。

(午後3時15分終了)